20日　日曜

ガラテヤ

Bible Reference 聖書の記述

2:1 それから十四年たって、私はバルナバと一緒に、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。
2:2 私は啓示によって上ったのです。そして、私が今走っていること、また今まで走ってきたことが無駄にならないように、異邦人の間で私が伝えている福音を人々に示しました。おもだった人たちには個人的にそうしました。
2:3 しかし、私と一緒にいたテトスでさえ、ギリシア人であったのに、割礼を強いられませんでした。
2:4 忍び込んだ偽兄弟たちがいたのに、強いられるということはありませんでした。彼らは私たちを奴隷にしようとして、キリスト・イエスにあって私たちが持っている自由を狙って、忍び込んでいたのです。
2:5 私たちは、一時も彼らに譲歩したり屈服したりすることはありませんでした。それは、福音の真理があなたがたのもとで保たれるためでした。
2:6 そして、おもだった人たちからは――彼らがどれほどの者であっても、私にとって問題ではありません。神は人を分け隔てなさいません――そのおもだった人たちは、私に対して何もつけ加えはしませんでした。
2:7 それどころか、ペテロが割礼を受けている者への福音を委ねられているように、私は割礼を受けていない者への福音を委ねられていることを理解してくれました。
2:8 ペテロに働きかけて、割礼を受けている者への使徒とされた方が、私にも働きかけて、異邦人への使徒としてくださったからでした。
2:9 そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケファとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し出しました。それは、私たちが異邦人のところに行き、彼らが割礼を受けている人々のところに行くためでした。
2:10 ただ、私たちが貧しい人たちのことを心に留めるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めてきました。

イエス様の十字架は全ての人のためであること、そして救いのために十分なものであることは、救いの理解にとって何よりも大切なことです。そうでないと、ある人にとっては十字架以外にも何かが必要になってしまいます。救いのためにお金や善行や修行が必要だとしたら、それはイエス様の十字架を不十分なものとして、引き下げてしまうことになってしまいます。

ここで言われている「割礼を強い」るというのもそのように、十字架を不十分とすくことです。パウロはそのような間違った福音を、何としても正したかったのです。

しかしながら、自分だけで独善的に進めようとはしませんでした。すでに「柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネ」からの信任と同意を大切にしたのです。ここにクリスチャンとしての、また働き人としての健全さがあります。そのような者が主の器であることを悟りましょう。また主の使命を果たせることを知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？